

【第7回で委員から示された基本計画大綱（案）に関する主な意見】

意見が示された範囲	該当箇所	委員から示された意見
全体	構成	<ul style="list-style-type: none"> ◆「計画策定にあたって」と「計画の理念」がほとんど同じ内容になっており、「計画の理念」をキーワードだけにするなど冗長性を排除した記載が良いのではないかと。【安藤委員】 ◆「計画策定にあたって」の実現したい姿と、それを政策化するための「計画の理念」で重複する部分はあって良いが、政策化するという書きぶりには必要である。【大杉会長】 ◆「計画策定にあたって」を追加したことにより、今までよりも読みやすくなった印象があった。【下川委員】 ◆「基本方針」が何に対してのものを明確にし、箇条書にはせず、文章としてきちんと書いてみたらどうか。1～3ページの「計画策定にあたって」、次は6～8ページの「基本方針」と一連の文章で記載し、あまりに重複するところがあれば調整するように進めてはどうか。一番の問題は基本計画大綱の全体図がないことであり、目次を入れるべきである。4～5ページの「体系図」は後ろが良い。【中村委員】 ◆「計画策定にあたって」は前文の位置づけだが、大綱の中身なのだから、一体のものとして作成すればわかりやすくなるのではないかと。重複を避ける必要があれば、あとで調整すればよい。【中村委員】
計画策定にあたって (1) 世田谷区をめぐる状況	第1段落	<ul style="list-style-type: none"> ◆「人口減少とは無縁であった世田谷区においても、今後は2039年ピークに」の表現は、少しミスリーディングだと感じる。人口が右肩上がりのことを想定していた行政が、少なくともコロナによって人口が増えなくなり、今より増えない、微減だというのが基本認識ではないかと思う。【中村委員】 ◆「人口減少とは無縁」とあるが、かつて減っていた時期もあるので、中村委員のご指摘をあわせて修正すべき。【大杉会長】
	第2段落	<ul style="list-style-type: none"> ◆「参加と協働の基盤を強化し」とあるが、世田谷区はこれまで取組みを進めてきたのだから、「参加と協働」が制度の中にビルトインされて、揺るがずに続いていくように、社会システムに組み込んでいくという内容を据えていただきたい。【安藤委員】
	第3段落	<ul style="list-style-type: none"> ◆「現在の世代の要求の実現により将来世代が必要とするものを損なうことなく～」とあるが、「要求の実現」ということを言わなくても十分通じると思うので、配慮をお願いしたい。【中村委員】 ◆国連の委員会報告では、「現在のニーズを満たしたときに」という表現だったと思うが、「要求」という表現は、やや強い印象を受け取られるかもしれないので、この表現は見直した方がよい。【大杉会長】
計画策定にあたって (2) 目指すべき未来の世田谷区の姿	①区民生活について	<ul style="list-style-type: none"> ◆「子ども・若者を主体として位置づけ」とあるが、意味が取りづらい。何らかの説明を加えた方がよいのではないかと。【中村委員】 ◆子どもは生まれた時から権利の主体であるということに対する取組みが世界的にも弱く、生まれた時から権利保障をきちんと考える必要があるという位置づけを明確にしている。【森田委員】 ◆「権利の主体」と書いた方がはっきりすると思う。【中村委員】

意見が示された範囲	該当箇所	委員から示された意見
計画策定にあたって (2) 目指すべき未来の世田谷区の姿	④自然環境について	<p>◆世田谷区でできることは、この地域の環境に配慮するというのがまず一番重要である。地域の環境に配慮し、単に自然を消費するのではなく、自然を次の世代にも受け継げるような、まちをつくるというようなネイチャー・ポジティブの表現が入ると、サステナビリティというところとも明確になると思う。【涌井委員】</p>
	⑤自治体経営について	<p>◆DXの取組みを加速という言葉が出てくるが、時代に応じて、どの時点で加速化されているのかというのは判断しづらいので、例えば、「今後のDX化により」であったり、DXが例えば住民の方となじんでいる状態のような言葉を付け加えると、どの時点でどういうDXが妥当なのかというところが分かりやすくなるのではないかと。【尾中委員】</p>
基本方針 (2) 計画の理念	②区民の生命と健康を守る	<p>◆ベーシックサービスというのは、どういう意味で使われているのか。共通理解が必要である。【大杉会長】 ◆医療や教育や保育など、誰でもベーシックなサービスを共通に受けられることが、所得格差が拡大する中で所得の再分配となり、日本では最も格差是正に有効な手段である。何よりも、幼児のときから貧富の差なく共通の教育が受けられるということが、言わば機会の平等にもつながるということで、ベーシックサービスと発言した。少なくとも後退しないようにこれまでの取組みを堅持していただきたいという意味である。【中村委員】 ◆できている部分とできていない部分があるので、そこはきちんと分かるような書き方をする必要がある。【大杉会長】</p>
	③子ども・若者を中心に据える	<p>◆子どもへの支援を進めることが、大人のケア等にもつながっていくといったことが文章に書いてあると、子どもを中心に据え取り組んでいくことが、高齢者や他の多様な領域につながるということへの理解が進むと思う。【鈴木副会長】 ◆「今を生きる子ども・若者は」と、「今を生きる」とあえて記載しているのはどういう意味なのか。なぜ子ども・若者を中心に据えるかと言えば、将来を支える存在であるということがキーワードになると考える。【中村委員】 ◆これまで子どもは将来の担い手という認識で支援が行われてきた。子どもたちは、遊び、学び、そして時には休みという、人間として当たり前の権利の主体として今を大事に生きているんだというところをきちんと認識した上で、施策をつくっていかねばいけないという意味で、「今を生きる子ども」としている。【森田委員】 ◆そういう趣旨であれば、きちんとそのように記載すべきであり、説明不足ではないか。【中村委員】</p>

意見が示された範囲	該当箇所	委員から示された意見
基本方針 (2) 計画の理念	④多様性を尊重する	<p>◆外国とつながる方たちの文化を包み込んでいくという視点が、全体として弱い気がする。キーワードとして多文化という言葉を入れてはどうか。【森田委員】</p> <p>◆「外国につながる」という言い方は確立しているものなのか。【中村委員】</p> <p>◆国籍、身体的特徴、人種等の問題と、文化という問題は非常に複雑に入り組んでおり、それぞれの方の固有の問題というのを十分配慮した様々な施策を考えており、この表現については特に問題はないかと思う。【江原委員】</p> <p>◆比較的最近よく使われている言葉ではあるが、注を付けるか補足をする必要はある。【大杉会長】</p> <p>◆「多様性を尊重する」という文章だが、啓発事業に留まるようにも読め、多様性を尊重するという理念に基づき、どのように区の施策に反映されるのかということまで広げていただきたい。【江原委員】</p> <p>◆マイノリティの方が、多様性が尊重されていると認識できるような施策を展開してほしい。また、多様性を発揮できるような社会環境を整備することが必要ではないか。【江原委員】</p> <p>◆「多様性の尊重」という言葉を広義で使うと、ダイバーシティに加え社会的包摂というインクルージョンの意味も含んでいる概念として使われるが、ここでいう「多様性の尊重」は、どういうものなのか。【鈴木副会長】</p> <p>◆ダイバーシティ&インクルージョンの意味で使っている。【江原委員】</p> <p>◆多様なニーズに対し、誰一人取り残さないで、制度・政策的にきちんと取り組んでいこうというのが、この基本計画の精神だと思うので、インクルージョンは当然入っているということだと思う。【中村委員】</p>
政策	重点政策	<p>◆「基本方針の目標実現に直結し」とあり、「特に重点的に取り組むべき政策」「横断的」という記載があるが、直結しなくても重要なものが入ってくるのではないか。重点政策は、考え方や位置づけの問題を整理した方がよいのではないか。【鈴木副会長】</p>
	重点政策①②	<p>◆障害のある子どもとない子どもと一緒に教育を受けることで双方にプラスになるという関係性をどう作っていくかがインクルーシブ教育のテーマであり、「インクルーシブな教育を目指す」「可能性を探る」といった言葉を入れたほうがよい。【汐見委員】</p> <p>◆世界的に非認知能力の育ちの重要性が認識されており、もう少し保育・幼児教育の大事さという視点を付け加えるべきではないか。【汐見委員】</p>
	重点政策④	<p>◆男女共同参画の記載があるが、基本的に女性のことに触れており、男性が子育てについて主体として取り組むということも入れられるといい。【安藤委員】</p>

意見が示された範囲	該当箇所	委員から示された意見
政策	重点政策⑥	<p>◆「産業連携による新たな価値の創出」とあるが、「産業連携」という言葉はあまり使われておらず、産業だけが連携するというのには少し違和感がある。異業種が連携してイノベーションを起こすという意味であれば「産業連携」が良いが、地域の経済を循環させていくという考え方に基づくのであれば、「産業連関」とした方がよいのではないかと。【長山委員】</p> <p>◆「商店街などを拠点に、起業家の輩出や育成を支える基盤づくりを進める」とあるが、リモートワークやオンラインが広まる中、デジタルプラットフォームの形成を図るのであれば、それも拠点となるのではないかと。【尾中委員】</p>
計画推進の指針	(2) DXの推進	<p>◆「区民やその生活を守っていくためにDXを推進していく」というような言葉が入れるとよい。【鈴木副会長】</p> <p>◆「計画推進の指針」のところは、行政のあり方に関わってくるところではあるが、大きな流れとして、政府として開かれたものになっていくというオープンガバメントという考え方と、オープンイノベーションという考え方を打ち出すことが必要ではないかと。【大杉会長】</p> <p>◆DXの推進にあたり、全てを一から作ると非常にコストがかかるので、自治体の枠を超えて事務を共通化したり、幅広く自治体間で連携していくことが必要ではないかと。【安藤委員】</p> <p>◆新たに導入するとなると、莫大なコストがかかってしまうが、例えば、もう既にあるLINE等をこのプッシュ型・プル型の情報発信に使っていくと良いのではないかと。【尾中委員】</p> <p>◆参加と協働のところは、DXを使って多様な意見を取り入れたりするという内容を盛り込んではどうかと。【羽毛田委員】</p> <p>◆現行計画と最も変わるのデジタルへの対応であり、重点政策①～⑥に、それぞれデジタルの活用を書き込むと良いのではないかと。【長山委員】</p>
	(3) 緊急時・非常時の体制整備	<p>◆基本構想にも、区庁舎の整備を進め災害時の拠点として十分機能するようにしますという記載があるが、全庁的な応援体制の前にきちんと「司令塔の構築」という言葉を入れる必要がある。【鈴木副会長】</p>
	(4) 組織運営の変革	<p>◆「人材育成・調査研究」の中に、デジタル人材というのをどう育成していくかという記載も必要ではないかと。【大杉会長】</p>
	(5) 情報発信・情報登録	<p>◆AIなど、そういった時代に相応しい個人情報の保護というところも、行政として考えていっていただきたい。個人情報のコントロールということについても、十分配慮するということを入れておくとういのではないかと。【安藤委員】</p>

意見が示された範囲	該当箇所	委員から示された意見
計画推進の指針	(6) 行政評価	<p>◆世田谷独自の指標や、世田谷の特徴を生かした指標を開発・設計するという内容を記載できないか。【長山委員】</p> <p>◆SDGsについても評価に関連することが書かれているが、世田谷区としてSDGsをどのように活用していくのかという視点は重要である。【大杉会長】</p> <p>◆区民が参加する形の行政評価というものをきちんと入れていくべきではないか。また、市民が参加する行政発信のようなことを、DXと絡めて書かれていくと、もっと市民に開かれていくのではないか。【森田委員】</p>
その他		<p>◆区民からすると複数の意味にとられる恐れのあるレジリエンスやシナジー効果という言葉は、誰が読んでも誤解が生じない言葉に置き換えるべき。【安藤委員】</p> <p>◆脱炭素社会の実現や、環境問題、多様性の尊重など大綱（案）の様々なキーワードに関わっていることでもあり、さらに、世田谷の地域・地区の特性を踏まえて取り組めることとして、食育について一言でも触れられたらよい。【下川委員】</p> <p>◆食育と同じように重要なテーマはたくさんある中で、基本計画の中に食育だけ書くということではできなくなるという問題があり、地域保健医療福祉総合計画や個別計画の中で書かれるべきではないかと思う。【中村委員】</p> <p>◆大綱とあわせて、区民理解の促進のためにも大綱の内容を一枚で説明する資料を作成して広報してはどうか。【羽毛田委員】</p>